

accumulation in Kyoho grapes (*Vitis vinifera* L. × *V. labruscana* Bailey). *Vitis* 21, 325–332.

内藤隆次ら 1986. ブドウ'巨峰'果実の着色に及ぼす気温および日照の影響. 島根大農研 20, 1–7.

大野宏之ら 2016. 実況値と数値予報, 平年値を組み合わせたメッシュ気温・降水量データの作成. 生物と気象 16, 71–79.

Poudel, P.R. *et al.* 2009. Influence of temperature on berry composition of interspecific hybrid wine grape 'Kadainou R-1' (*Vitis ficifolia* var. *ganebu* × *V. vinifera* 'Muscat of Alexandria'). *J. Japan. Soc. Hort. Sci.* 78, 169–174.

清野 諭 1993. アメダスデータのメッシュ化

について. 農業気象 48, 379–383.

Shinomiya, R. *et al.* 2015. Impact of temperature and sunlight on the skin coloration of the 'Kyoho' table grape. *Sci. Hortic.* 193, 77–83.

Shiraishi, M. *et al.* 2007. A rapid determination method for anthocyanin profiling in grape genetic resources. *J. Japan. Soc. Hort. Sci.* 76, 28–35.

Sugiura, T. *et al.* 2013. Changes in the taste and textural attributes of apples in response to climate change. *Scientific Reports* 3, 2418.

Sugiura, T. 2018. Prediction of skin coloration of grape berries from air temperature. *Hort J.* 87, 18–25.

Sugiura, T. *et al.* 2012. Overview of recent effects of global warming on agricultural production in Japan. *JARQ.* 46, 7–13.

苦名孝ら 1979. 樹上果実の成熟に及ぼす温度環境の影響 (第2報). 園学雑 48, 261–266.

Yamane, T. & K. Shibayama 2006. Effect of trunk girdling and crop load levels on fruit quality and root elongation in 'Aki Queen' grapevines. *J. Japan. Soc. Hort. Sci.* 75, 439–444.

山根崇嘉ら 2007. ブドウ'安芸クイーン'の着色実態および 状態はく皮と着果量の軽減による着色改善. 園学研 6, 441–447.

田畑の草種

葛・国柶・裏見草 (クス)

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

この夏の猛暑を逃れようと、列車に乗って都会を離れる。窓の外のビル群を抜けると小高い丘や林、田圃と風景が変わる。変わった途端、鉄道の脇や道路の法面を、その脇にある電柱を、手入れの悪い林や竹林を、さらには目の前の山肌まですっぽり覆い尽くす草に出会う。「葛」である。

これはマメ科クス属の多年生草本。見てのと通りの繁茂力で、1年に10m以上蔓を伸ばし、人手の入らない荒地などは瞬く間に覆い尽くされる。大きき10cm～15cmの浅い切れ込みのある丸い葉3枚を1軸につける3出複葉。花は大きな蝶形花で、花卉構造を学ぶにはもってこいである。

その花の美しさで「秋の七草」に上げられ、山上憶良は、  
秋の花尾花葛花なでしこの花  
をみなへしまた藤袴朝顔の花 (巻8)  
と詠った。

秋の七草は花を愛でる七草である。が、この葛は食用を始め用途は多い。小学校のウサギ当番で、明日の餌にと子供らが競って摘んだ葉。その根をつぶして澱粉をとり、何度も水に晒して灰汁を取り除いた吉野葛。葛の根を干した葛根。10mにもなる蔓を柔らかい内に切り取り、固くなる前に編み込む籠。煮てから発酵させ、そこから取り出した繊維で編んだ葛布。

とは言え、萬葉人もこんな歌を残している。

赤駒のい行きはばかり真葛原  
何の伝て言直にしよけむ (巻12)

下の句は、言伝なんてじれったいことを言っていないでじかに会うのがいいに決まっているのに、というほどの意味だが、上の句は、元気な赤馬の行く手を阻むほどの葛が野を覆っているのですよ、だから言伝にしたのです、と下の句に続く。秋の七草で愛でられてはいるが、繁茂しすぎて邪魔になる草でもあったようである。

徒然草にもこんな一節がある。  
「草は、・・・撫子。秋の草は、荻・薄・桔梗・萩・女郎花・藤袴・・・。葛・朝顔。いづれも、いと高からず、さゝやかなる、牆に繁からぬ、よし。」(139段)

葛を除く他の「秋の六草」は吉田兼好をして庭に植えたい草として取り上げられているが、唯一、葛は例外で、背が高くなり垣に繁るからダメだという。万葉の時代から現代に至るまで、いつの時代でも大変な草であるようだ。

ちなみにこの葛、1876年に米国フィラデルフィアに持ち込まれた。飼料作物、庭園装飾、緑化、土留めなどに推奨されたが想像以上に繁茂し、「デビル・プランツ」としてその隆盛を誇っている。